



中央中だより

<第4号>



4月の新学期から早3ヶ月が過ぎ、まもなく1学期の終業式を迎えます。夏休みは、学校の時間割やチャイムから離れ、自立心や主体性を発揮することができる大切な期間です。一方で、自由な時間が長い分、生活リズムの乱れや、SNSトラブル、交通事故などの心配もごさいます。生徒たちにとって有意義で安全な夏休みにするためには、ご家庭でのご支援や見守りが欠かせません。規則正しい生活習慣の定着や計画的な学習、家族の一員としての役割等について、ご家庭でも声がけをお願いいたします。

◇ 校内弁論大会 ◇

6月10日（水）2・3年生の代表の生徒8名が、日頃考えていることや自らの経験から気づいたこと等を発表してくれました。いずれも中学生らしい主張で論旨に一貫性があり、聞いている私たちに共感と感動を与えてくれるものでした。

代表者8名の発表内容を私なりに論旨を端的にまとめると「時間は平等だが、個人の価値観等により差がある」「当たり前は人によって違うもの」「未来を変えるには小さな一歩を踏み出す勇気が必要」「広い視野がもてると見え方が変わる」「スマホとの距離感を変えると生活が変わる」「甘えの関係から指摘しあえる関係へ」「人を表面で判断せず、本質を見極めること、対立から協調へ」「普通は人それぞれ違うことを理解すると見方や考え方が変わる」といった内容でした。いずれも素晴らしい発表でした。



【弁士の発表に耳を傾ける生徒たち】

◇ 部活動 市総体で熱戦！ ◇



5月30日（土）のソフトテニス部、バドミントン部を皮切りに中央中の各部の生徒たちが熱戦を繰り広げてくれました。教室とは異なる生徒たちの姿を見ることができ、頼もしさを感じることもできました。また、試合後の力を出し切った生徒たち、悔しさをにじませる生徒たちを見ていると、試合にかける思いが伝わり、胸が熱くなりました。

今後、県総体に参加する生徒は、中央中の生徒であるとともに桐生市・みどり市の代表です。出場が果たせなかった人たちの思いを背負いがんばって、高みを目指してほしいと思います。

◇ 3年生京都・奈良へ 修学旅行 ◇

6月1日（月）～3日（水）3年生が京都・奈良へ修学旅行に行ってきました。生徒たちは、社会科の授業や事前学習で学んだ古都の遺産や文化に触れる目標を仲間と協力しながら達成できたと思います。バスやタクシーの運転手さんやガイドさん、薬師寺のお坊さんからも中央中の生徒たちの学ぶ姿勢や場に応じたマナーの良さ、コミュニケーションの応力、そして思いやりある態度にお褒めの言葉をいただくことができました。引率していた私も誇らしくうれしい気持ちになりました。

3年生には、修学旅行で学んだこと、深めた友情を今後の学校生活の中で存分に発揮してほしいと思います。



【東大寺の参道を歩く生徒たち】



7月の主な行事

- 1日（水）1年授業参観・保護者会
- 2日（木）2年授業参観・保護者会
- 3日（金）3年高校説明会・保護者会

- 16日（木）特別清掃
- 17日（金）1学期終業式

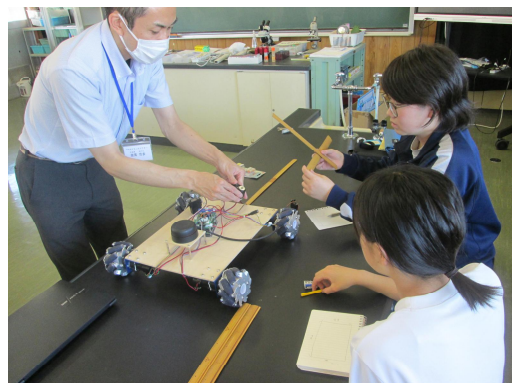
◇ 理科部の取り組み ◇

5月29日（金）の放課後、「理科部」の活動を見学させていただきました。本校の「理科部」は、他の部活とも掛け持ちができることが特徴の一つであり、他校では、なかなか見られない部活動だと思います。本人の「やる気」が大前提ですが、顧問の先生や市のサイエンスドクター（SD）のサポートを受けながら、授業の発展的な学習や先取り学習、個人の興味・関心に応じた探究が可能です。

この日は、桐生高校の校長先生と一緒に「多方向走行ロボットの製作」の様子を見学させていただきました。

部員たちは、プログラムで、どの方向にも自由に進むことができる台車に、アームを取り付け、モップで床を拭く！といったミッションを達成するためにはどのような機構を用いるべきか？考えます。そして、試行錯誤しながら機構をスケッチし、SDからアドバイスを受け、さらに修正する作業を繰り返し行っていました。

桐生高校の校長先生から部員たちに「科学を学ぶ者にとって、試行錯誤している時間はとても楽しいものです。そこでの気づきや発見は、必ず皆さんの成長につながります。これからも身近な疑問や不思議について、関心をもってほしいですね。」とエールをもらうことができました。



【SDからアドバイスを受ける理科部員】

※理科部は不定期な活動となりますので、興味がある生徒は活動日を確認の上、まずは見学からいかがでしょうか？

◇ 部活動の思い出 ◇

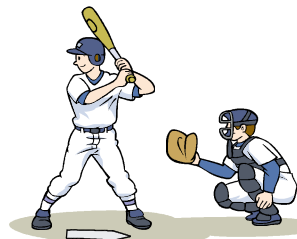
平成20年7月21日夏休みの初日の広沢球場で、当時、広沢中の軟式野球部の顧問として生徒たちとともに挑んだ最後の市総体。結果は、川内中に最終回まで1点リードしたものの2-3で逆転負けでしたが、最高の夏の思い出になりました。

チームの目標は県大会出場でしたが、中学から野球を始める生徒が半数以上で、市で優勝どころか初戦を突破するのがやっとのチームでした。それでも、日々練習に励み、土日にも休むことなく練習試合（当時は制限なく部活動を行っていました）、雨の日は体育館や柔道場でトレーニングを行うなど、自分の家族と過ごす時間よりも部員と一緒に過ごす時間が多かったように思います。

「この部員たちと最高の夏の大会を！」といった思いから、私は「広沢球場を満員に！」「吹奏楽部にも応援を！」と奔走し、保護者や地域の方々、在校生やOB、大切なコンクール直前の吹奏楽部にも応援依頼しました。結果、本当に多くの人たちが広沢球場に足を運んでくれました。（グラウンドから見上げたスタンドは満員に見えました）試合が始まると吹奏楽部がコンバットマーチなど甲子園で定番の曲や校歌を演奏してくれ、私たちは勇気づけられ試合に挑みました。そしてゲームセット。最後は、全員が悔しさで目に涙を浮かべながら観客席に感謝の気持ちを込めて一礼したことを覚えています。

あの夏から18年、当時の部員たちと再会し、ひとときを過ごす機会がありました。私と当時の部員にとってのかけがえのない青春の一ページ。ひとつの目標に向けて汗を流し、夢中になってボールを追いかけた私たちだけが共有できる懐かしい話に花を咲かせることができました。今でも大切な思い出のひとつです。

さあ、これから県総体です。ここまでやってこれたこと、支えてくれた家族や仲間、先生方、すべての人たちに感謝し、悔いのない最高の試合を期待しています！頑張れ中央中の生徒たち！



<文責 校長>